

日 時：平成 27 年 3 月 2 日（火） 18 時 30 分～20 時 15 分

場 所：平田森多目的集会所

対象町会：平田森

参加人数：19 人

■要望、質疑応答

内 容
<p>○除雪について</p> <p>（市民からの要望・質問）</p> <p>翌朝にかけて1センチも降っていなくても除雪車が来ていることがある。降雪が多くなっても、道路の雪を剥いで家の前に置いていく。除雪に出る基準はあるか。また、昼間に多く雪が降ることがあるが、昼間の除雪は検討しないのか。</p> <p>（市の回答）</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・ 10センチ以上の降雪の予報があれば、除雪に出るという基準となっている。夜中の間に除雪をしなければならず、予測の下で出勤しているので、出勤しても降らない場合もある。多くの路線を除雪しなければならず、早い時間帯に除雪される場所もある。</li><li>・ 毎年、土木課で除雪計画書を作っている。その中で基準があり、降雪量が10センチ以上の場合、または降雪量が8センチ程度であっても降雪状況、気象通報等によって雪が降り続くことが予想される場合、あるいは交通に支障をきたすと考えられる場合に出勤すると定めている。</li><li>・ 今いただいたような苦情は毎年出ている。除雪の出勤は委託業者にある程度委ねられており、苦情があれば土木課から業者に指導をするようにしている。今年は空振りが少ないと思う。</li><li>・ 幅出しのロータリーや排雪作業は、昼間出ることもある。どうしても昼間は交通量が多いので、除雪に出ることによって交通に支障をきたすことがある。このこともあり、努めて昼は除雪に出ないよう指導をしている。排雪についても基本的には夜中に行うようにしている。交通に支障をきたす恐れが少ない場合には、昼間の幅だしを行うことがある。</li></ul>
<p>○行政の効率運営について</p> <p>（市民からの要望・質問）</p> <p>少子高齢化のなか、人口はますます減少していくと思われる。空き家も出てくるだろう。住家が点々となれば水道事業や道路行政についても効率性が悪くなる。人が集合することで、事業費が少なくなるよう、市で施策を検討しているか。</p> <p>（市の回答）</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・ 人口減少していくのは確かであり、また高齢化が進むなかで空き家はかなり多くなって</li></ul>

くる。昨年度調査し、市が認識している空き家は、平賀地域で142件、尾上地域で88件、碓ヶ関地域で193件、計423件である。

- ・空き家とはいえ個人の財産であり、市で勝手に処分したりなどは難しい。明日から始まる市議会定例会に空き家に関する条例案を提出することとしている。倒壊しそうな建物もなかにはあるので、持ち主と連絡を取りながら進めていく。市で解体をしたとしても、解体費用を持ち主から回収できなければ、市で皆さんの税金を使っていることとなる。まずは条例を作り、空き家をできるだけ少なくしていきたい。空き家のなかには利用できるものもあるので、有効活用も検討する。
- ・集落が固まり効率的になればよいが、それぞれの土地を持っているなかでそれを一つの集落にまとめるというのは難しい。
- ・平川市ではひとつひとつの集落がうまく機能している。集落のなかで自分たちで地域づくりをやっていたらいいということで、コミュニティ補助金なども出している。
- ・平成27年度からコミュニティ補助金の基準を変える予定である。1戸当たり400円だったものを500円にて計算する。コミュニティ補助金を会館の維持や地域の行事などに活用していきたい。地域でできるところは地域でやっていただき、どうしてもできないところを行政でやっていくという方向にしていきたい。

#### ○広船スキー場の復活について

(市民からの要望・質問)

市長の年頭の抱負で、教育環境の整備があった。雪国なのだから、ウィンタースポーツに力を入れて欲しい。小学校にスキー山があるが、成績、技術を上げるためには練習する環境が必要である。そのために広船の嘉瀬沢を整備し、市でスキー場を作ってはどうか。大鱈スキー場に行けば良いと思うかもしれないが、大鱈まではなかなか行けない。もっと近くで、子どもたちの体力を醸成する場所を作れないか。

(市の回答)

- ・教育関係の整備というのは学校の建物のみならず、社会教育も含めて力を入れていかなければならない。
- ・今の時代、スキー場を整備することは難しい。広船スキー場が無くなったのは、旧平賀町で止めたということもあるが、スキー場に行く人がなくなったということもある。当時は広船でスキークラブを作り、スキークラブで管理し町から補助をもらっていた。
- ・当時、広船小学校では児童全員がアルペンかクロスカントリーをやらなければならなかった。校長が変わった際、スキーをやるかどうか自由となり、やる児童がいなくなった。
- ・市でスキー場を整備し、市で維持管理していけるかとなれば難しい。大鱈、百沢、相馬ロマンピアスキー場があるので、そちらを利用いただきたい。
- ・アルペンだけがウィンタースポーツではない。クロスカントリーもウィンタースポーツであり、体力づくりの面でのスキーを考えても良いと思う。

○低投票率について

(市民からの要望・質問)

平田森町会の執行部にお願ひがある。平田森は市内の中でも投票率が低く、38パーセントほどしかない。町居の投票所まで行くのが大儀だという思いもあるとは思ひが、投票は政治に参加することである。政治というのは生活に関わってくることなので、是非投票に行つてほしい。

(市の回答)

- ・住民の皆さんが政治に参加し、権利を行使するということは非常に大事である。
- ・今後18歳から投票できるとなると、子どもの頃から選挙や政治に関する教育というのが大事であり、必要になってくる。
- ・別な地区のまちづくり懇談会で、高校生の方から平均寿命のアップ、子どもたちの模擬議会の話をいただいた。昨年、市長となり模擬議会もやろうとしたが、実現できなかった。平成27年度は学校と調整を図りながら、模擬議会をやるように努力する。政治に関心を持ってもらえるようにしたい。
- ・投票の仕方もより簡単にできるやり方を考えないといけない。市町村によっては、出前で不在者投票を実施しているところもあると聞く。選挙管理委員会とも相談しながら、投票率アップを考えていかないといけない。

○全国大会遠征費の助成について

(市民からの要望・質問)

先日、ソフトボールの関係で市長に要望書を出したが、その後の経過を知らせてほしい。

(市の回答)

- ・これまでは全中など、学校単位で行くものについては市で助成していた。県選抜などに対しては、1人当たり1万円が助成の上限であった。しかし今回、青森県選抜17名中、11人が平川市の生徒ということである。大会の場所が、福岡県とのことである。
- ・学校単位ではなく、スポーツ少年団などで全国大会に行くということも出てくると思う。今までのものをそのままとするのではなく、新しいものが出てきたときに検討していく。
- ・今回の要望に対しては、5万円弱位の助成になると思う。それでも金額が足りないとは思ひが、支援させてもらう。
- ・現在、企画財政部と協議中である。今まで無かつた事例であり、このようなことがこれまで無かつたので、そもそも想定していなかつた。
- ・福岡までの遠征費は1人当たり15万円ほどであるが、全国大会に行く場合の積算される助成対象品目を拾えば10万円前後となる。その額の2分の1助成で協議中である。

○市職員の町会事業への参加について

(市民からの要望・質問)

行政側と市民との交流を図るため、町会在住のOB職員を含め、市職員は町会のコミュニティ活動等に積極的に参加してもらいたい。パイプ役として生の声を相互に反映させてはどうか。強制的に参加させることは難しいと思うが、また、OB会などにも働きかけをお願いしたい。

(市の回答)

- ・市職員に対し、町会活動へ強制的に参加するようには言えない。職員の中には、町会の役員をやっている人もいる。
- ・市長就任時のあいさつの中で、地域と行政が力を合わせ一つになれば市全体が良くなる、市民本意の考え方を話す話をした。市職員も地域に帰れば、その地域の住民である。市の職員は行政の情報を多く得ているので、地域にいれば地域と行政をつなぐ力になっていくと思う。
- ・まちづくり懇談会で各町会を回ってみると、それぞれの地域のコミュニティはうまくできていると感じる。
- ・市長選時に人口減少する中であって、いくつかの町会が一つとなり、地域自治組織を作らなければならないと話をした。これを望む声も聞く。しかし、平賀地域は町会が離れており、それぞれの地域でできることはそれぞれの地域でやった方がいいのかなとも感じている。複数の町会が区域としてまとまっているところについては、地域自治組織の形態も考えられる。

○市道の交差点の除雪について

(市民からの要望・質問)

広い道路を除雪した際、狭い道路の出入口を塞ぐような除雪はしないでほしい。多いときには80センチほども置いていく。交差点の手前に除雪した雪を置ける場所があるので、そこにおいて貰いたい。

(市の回答)

- ・土木課で業者に対し、交差点の片側に多く置かないように指導していると思う。できるだけそうならないように、再度指導させる。
- ・除雪予算は、当初1億8千万円ほどであったが、8千万円と6千万円の2回追加している。
- ・平川市は除雪が良いと聞いているが、場所によっては今回のような苦情が出ている。交差点などでは、除雪業者が回る時間に差がある場合、どうしても雪を置いていくことや段差が出てくると思うので、改善できるように指導していく。

○道路の拡幅について

(市民からの要望・質問)

平田森には、狭い道路が2箇所ある。緊急車両も入れないような道なので、袋小路対策を含めた道路拡幅工事をお願いしたい。道路拡幅工事の要望は、町会を通して出したいと思うので、提出した際はよろしく願います。

(市の回答)

- ・袋小路の改善については、町会要望を貰った際に現場を見て検討する。ただし、要望全てを実施することはできないので、現場を見て、計画を建てながら進めていく。
- ・今年いただいた町会要望の、道路の段差については平成27年度に実施予定である。

○除雪車のアタッチメントへの助成について

(市民からの要望・質問)

除雪車のブレードにアタッチメントを付け、玄関先に雪を置いていかないようにはできないか。もし、実現できるのであれば、除雪業者へ補助を検討してはどうか。

(市の回答)

- ・弘前市で実施しているとは聞いているが、全ての業者がやっている訳ではない。
- ・雪を押ししていく除雪の場合は、その雪をどこかに置かなければならず、玄関先に置かないとなると別の場所の道路幅が狭くなってくる。
- ・高齢者の方は、玄関先の雪に苦勞している。ますます高齢化社会となっていくなかで、業者が置かないようにすれば良いのか、またコミュニティで除雪機などにより除雪した方が良いのかなど考えていかなければならない。

○引座川の大由による洪水予防対策について

(市民からの要望・質問)

平成25年の台風18号の大由により、田んぼやりんご園が冠水した。その後も少し多めの雨が降ると川の水が土手を越えそうになる。川底や護岸に土砂が堆積していることが原因だと思うので、土砂の撤去をお願いしたい。

(市の回答)

- ・市での実施は難しい。河川管理者である県の中南地域県民局に要望していく。
- ・台風18号の時には、引座川が杉館のところで決壊し、その水が日沼までいった。土砂が溜まっているところは確かにあるが、下流域から取り除いてこないといけない。

○町会の基幹排水路の改修工事について

(市民からの要望・質問)

平田森多目的集会所裏から柏木農業高校グラウンド方面への排水路の流れが悪くなって

きており、少し多めの雨が降ると集会所裏の道路や、流域の田んぼが冠水する。原因は基幹排水路が棚渠排水路のため、棚渠・杭が破損し倒れ、そこに土砂が堆積し水の流れが悪くなるからだと思う。

これまで、その対策として農地・水組織のクリーン平田森で平成19年度から棚渠を補修したり、排水路の土砂の撤去をしてきたが手に負えない状況であるので、基幹排水路600メートルのU字溝化をお願いしたい。市か土地改良区で一括で工事できないか。

(市の回答)

- ・浅瀬石川改良区との協議が必要であり、事業費の負担をどうするか等を検討しなければならない。
- ・雪解け後に現場を確認する。

○農業生産基盤に関わる状況調査について

(市民からの要望・質問)

平成25年に中南地域県民局より、農業生産基盤に関わる状況調査というものがあり回答をした。これに対する返答などはなく、どのようになっているのか確認したい。

(市の回答)

- ・中南地域県民局に確認したところ、アンケートはそれぞれの地域でどのような課題があるのかを把握するためであり、状況を知るために調査しただけとのことであった。課題を即、根本的に解決するという調査ではないとのことであった。

○集落営農の今後について

(市民からの要望・質問)

市の集落営農の現状と、稲作農業の体質強化緊急対策の申請状況についてお知らせ願いたい。

また、米を取り巻く環境は、概算金の大幅な減額、後継者不足やTPP交渉妥結を控えるなど厳しい状況にある。

これまでの集落単位の営農から、集落を超えた大規模化する必要があるのではないかと。市では今後の集落営農のビジョンをどのように考えているか。

(市の回答)

- ・米農家は非常に苦勞されている。戦後に比べ、国民が食べる米の量が半分以下に減ってしまっている中で、これからの水田農業をどのようにしていくかという苦勞が多いと思う。
- ・青天の霹靂が特A米となった。生産基準を守ってブランド化していきたいというのが県の方針である。その生産基準を守って、消費者に少しでも高く買ってもらえるよう、また、認められるようになってもらいたい。山形県をつや姫のような、生産履歴をきちっとしていかなければ、高い値段は付きにくいと思われる。青天の霹靂を生産する場所は、

限られてくると思う。収量も多くて9俵くらいという基準を設けるようである。青天の霹靂が認められれば、つがるロマンも値が少しは上がるのではないかと期待している。

- ・市内で集落営農をやっているのは7組織、法人化しているのが2組織である。
- ・稲作農業の体質強化緊急対策は、農林水産省による事業である。米価変動にも対応できるよう稲作農業の体質を強化するため、稲作農業者が取り組む生産コスト低減の取組等を支援する制度である。申請件数が23件であり、取組みメニューは、重複しているものもあるが、疎植栽培8件、土壌分析10件、生育診断3件、プール苗2件、温湯消毒3件、側条施肥4件、苗箱処理3件、田植処理3件、直播栽培1件、機械共同利用1件となっている。コスト削減を証明する書類の提出は必要ないが、取組状況を確認できる提出書類が煩雑であり、断る方が多い。
- ・集落営農ビジョンは、米価概算金の下落、後継者不足等により、個人では将来的に経営を維持できない農家が増えることが懸念される。このことから、集落営農を組織し農業経営を発展させ、法人化することで規模拡大や経営の多角化、基盤強化を図り持続的農業経営をすることである。
- ・集落を超え、もっとスケールメリットを生かした営農は将来的には必要になってくると思う。
- ・集落営農でなく、個人で大規模に稲作をやっている人はいろいろな所に田を見つけて、2、30町歩を作っている人がいる。
- ・それぞれの地域に合った集落営農のやり方を、今後も考えていかなければならない。
- ・米の場合、減反がなくなるとますます米余りとなってくる。国では、飼料米にしたりなどやってきているが、米だけに特化せず畑作とあわせた形で考えなければならぬ。
- ・市としては米、りんご、野菜、もも等の1次産業を活性化させ、2次、3次産業と併せたなかで雇用の場を作っていかなければならないと考えている。

○ふるさと納税の取り組み状況について

(市民からの要望・質問)

平川市のふるさと納税の現状を知らせてほしい。

(市の回答)

- ・平川市では、平成25年度は7件で58万円であった。件数、金額とも少ないことから、東京津軽平川会などで宣伝も行ってきた。今年度は12月末で24件、144万円である。他の市町村に比べれば、非常に少ない。
- ・これまで納税額の1割分までが寄付金控除の対象であったが、2015年度からは2割分までと増えることになる。これによりますます、ふるさと納税の金額が増えていく。
- ・1月からは市内の業者をお願いをして、ふるさと納税にお返しとして送れるようなものを募集、登録をしている。1万円のふるさと納税で、3千円相当の特産品を送るということで現在取り組んでいる。
- ・ふるさと納税が多い市町村を見ると、牛肉、カニなどを特産品で送っている。

・平川市としては現在、りんご、りんごジュース、ラーメン、お菓子、調味料などの特産品の申し込み、登録があった。また、米、牛肉の生産者にも応募してほしいとのことで声がけをしている。津軽のももなどの期間限定品も入れていければと思っている。平川市の特典についても広げていきたい。

○6次産業化について

(市民からの要望・質問)

田子町のタッコーラが人気だとのことである。このように地域の独自性を出すためには、新商品の開発が必要となるが、それには自前の加工施設の整備が必要と考える。個人での施設整備は手続きも面倒だし、多額の費用がかかるため限界がある。市で整備する計画はあるか。

(市の回答)

- ・6次産業化は実施していかなければならない。去年はももスイーツの評判が良く、よく売れていた。
- ・文化センターの隣に県の加工センターがあるので、これを県より譲り受けたいとのことで協議をしている。県でも建設時に国の補助事業により建てているため、国より許可を得なければならず、東北農政局とも協議中である。市で取得し、加工グループの方に利用していただいたり、商品開発をしていければと考えている。保健所の許可も取り、作ったものを販売まで行えるようにしていきたい。

○防災無線について

(市民からの要望・質問)

昨年度、防災無線が整備されたが、室内に居るとほとんど聞こえない。最近は異常気象も頻発している。早期に個々の住宅に個別受信機を設置してほしい。

(市の回答)

- ・市民の安全、安心を守るというのは行政の一番の仕事である。防災無線、自主防災組織も進めながら安全、安心を守っていく。
- ・平成27年度の予算編成に際して5つの項目があるが、その中の1つに防災に重きを置いた安全、安心に予算を組むこととしている。明日からの市議会に予算案を提出する。
- ・2年間で掛け、約6億円の事業費で整備が終わった。防災無線は、業者でも試験を行い設置したわけだが、聞こえない等の苦情をいただいている。皆さんの意見を聞いて、スピーカーの角度を変えるなど対応していく。
- ・近年の住宅は機密性も高くなっており、家の中では聞こえにくいところもあると思う。個別受信機も公共施設などには用意する予定だが、1台あたり7、8万円かかることから每户への配布は難しい。



○資源物分別指導員について

(市民からの要望・質問)

資源物分別指導員の推薦に苦勞している。平成27年度の指導員も何とか確保できたが、その後確保できるかは保証が得られていない。市からの指導員報酬に町会でも報酬を上乗せして、指導員を引き受けてもらっている。他の町会の状況はどうか。

また、将来的に今の管理方法を変える予定はあるか。回収ボックスを町会に設置するなどできないか。

(市の回答)

- ・指導員の確保については、他の町会からも大変だと話がある。大変ご迷惑だとは思いますが、指導員の選任は町会にお願いしたい。
- ・回収ボックスは、大変良い方法である。現に、本庁舎、尾上、碓ヶ関総合支所に回収ボックスを設置しており、利用者数も非常に多い。分別方法、マナーが定着していくと思うので、タイミングを見て、いずれは回収ボックスを町会に設置する方法にしていければと考えている。

○町会内の歩道の除雪について

(市民からの要望・質問)

平田森の神社から十文字にかけて、歩道に雪を高く積んでおり危険である。積まれた雪の上半分でも排雪できないか。雪には亀裂も見られ、登下校する児童に崩れてくる危険性もある。雪が降り始めた当初から、排雪できないか。融雪溝が設置されれば、現状を打開できると思うので、融雪溝を設置して欲しい。

(市の回答)

- ・融雪溝の設置は、流す水があること、水が流れ出る先があること、水をポンプアップした場合などの受益者での負担、また、融雪溝が出来た際には周辺の住民の方が融雪溝に雪を捨ててもらふことなどの条件がある。条件が揃わないと融雪溝の設置は難しい。
- ・雪の降り始め当初から、排雪をしていくことは難しい。
- ・土木課、教育委員会に話をし、現場を見させてもらう。

○道路の舗装について

(市民からの要望・質問)

生活道路で舗装されていない区間がある。郵便、新聞配達などでも頻繁に通る道路であるので舗装をお願いしたい。

(市の回答)

- ・場所を確認する。

○野菜畑の排雪について

(市民からの要望・質問)

自分の畑に、除雪した雪を置いていく。今年は雨が多かったので融けているが、毎年排雪するようお願いしたい。神社のところに置いていく雪は排雪しているが、自分の畑は排雪してくれない。

(市の回答)

- ・排雪は除雪業者がやっていると思う。除雪した雪を畑に置き、その排雪については業者の対応となる。市へ連絡いただければ、土木課より業者に連絡する。

○町会間の防犯灯の修理について

(市民からの要望・質問)

町会間の防犯灯の修理をお願いしても、修理するまでに1ヶ月、2ヶ月、場合によっては半年かかることもある。修理を依頼した際には、もっと早くやってほしい。

(市の回答)

- ・今年、市内の街灯、防犯灯を全てLED化する計画である。街灯は、既にLED化しているところを除くと約3,900灯ほどあり、9,600万円ほどの事業費を見込んでいる。もし、切れているところがあれば少し待っていただけないか。

○耕作放棄地について

(市民からの要望・質問)

耕作放棄地について、田、畑を含め維持、再生する取組みが必要ではないか。昨年JA総代会でも話をしたが、市で主導権を握り進めないと具体的なものにならないと思う。

(市の回答)

- ・田の耕作放棄地は使い道があるかもしれないが、傾斜地にある畑であった耕作放棄地を市で何とかするというのは難しい。耕作放棄している土地であっても、個人の財産であり、これを行政で何とかするというのは難しい。
- ・耕作放棄地対策として農業委員会で予算を見てはいるが、傾斜地の畑は収量も少なく、作業効率も考え耕作放棄していると思う。平らな土地に下りてきて、田をりんご畑に変えたりしている。放棄地が勿体ないという思いはわかるが、行政で再生することは難しい。
- ・中山間で、年1、2回は耕作放棄地の草刈りは実施していると思う。